

協議事項②

平成26年産米のJAあきた白神力ントリーエレベーター利用について



Q 今年、CEの荷受調整日を設けておりますが、どうしても必要なのでしょうか。また、中継基地は9月24日からですが、刈取りが早まった場合の対応について教えてください。

A 荷受調整日については、荷受重量が連日におよんで過剰になった場合、荷受の停止につながったり、また、刈り取った籾を乾燥できずに品質事故を引き起こしたりします。これらを予防するために今年度は9月29日(月)に荷受調整日

を実施します。荷受開始については、CEが9月20日(土)から受入可能となっております。

協議事項③

平成27年度用営農資材予約注文書について

Q 昨年、県南の種子から、ばか苗病が多く発生しましたが、今年、は地元の種子に変更したと聞いております。しかし、今年の種子からも発生しております。特定の生産者から発生したと聞いておりますが、どうなのでしょうか。

A 種子籾生産者は、採種圃場周辺に作付する育苗ハウス巡回や採種圃場500m周辺にばか苗病発生状況の確認を随時行い、種子圃場に感染しない対策を講じております。発生要因としては浸種水温の低下によって消毒剤の効果が十分発揮できないこと、水の量や循環によって薬剤の拡散による防除効果の低下が挙げられます。浸種の水温10〜15℃で防除効果が高く、水量は種子容量の2倍程度として下さい。(種籾1kgに対し水約3.5リットル)種子周囲の薬剤濃度が高まった状態で消毒効果が発揮されますので、浸種開始後は2日間は種子袋をゆすったり、水のかけ流し、循環や

交換しない管理を行って下さい。特定の生産者からの発生については確認しておりません。

Q 新品種の種子の入手方法、栽培方法について詳しく教えてください。

A 27年度よりデビューする「秋のきらめき」「つぶぞろい」は、あきたe.c.oらしい栽培を基本的に示す戦略的な取り組み(あきたこまちからの品種変更を行い産地化目指す等)を行い、主食出荷用だけの種子供給になります。加工用米・備蓄米・飼料用米での出荷はできません。集落で話し合い、あきたe.c.oらしいでの取り

組みと全農あきたとの販売戦略を検討しながらの種子供給になります。新品種については能代、二ツ井、藤里地区で展示圃場を設置しながら、生育状況を確認しておりますので、稲作部会等の検討会で実証内容が報告されます。

Q 米の価格が下落し、来年度の肥料を調達できない。肥料・農薬の値段も大幅に下げることができないのでしょうか。

A 米価が低迷しておりますので、生産コスト削減のため、予約注文をお願いいたします。

超目玉商品の注文、肥料の特別価格銘柄、農薬の大型規格品も充実させております。

Q 種籾の価格も米と同じように下がらないのですか。

A 種子の価格は、標準的な収入額から算出する「基本価格」と種子生産に係る「掛かり増し経費」から算出する「種子加算額」で決定されます。米価の下落により「基本価格」が減じられます。

その他

Q 米価が下落した場合のナラシ対策の内容について教えてください。

A 都道府県単位で、米、麦、大

